

日本大学 桜樹会会報

第 16 号

昭和54年6月

日本大学桜樹会

目 次

ワールドカップ	門 脇 春 男	2
昨今の世相に思う	遠 藤 幸 雄	3
最近強く感じる事	春 山 文 子	5
男子ヨーロッパ選手権をみて	今 村 悟	7
訂正とお詫び		9
競技会成績		10
昭和53年度 事業及び行事報告		12
昭和53年度 決算報告		13
昭和53年度 会費納入者一覧		14
昭和54年度 桜樹会予算		17
懇親会報告		18
ゴルフコンペ成績		19
昭和54年度 体操部新入部員		20
昭和54年度 体操関係年間予定		20
会員名簿訂正・追加		21
出身高校にみる桜樹会員のふるさと		22
編集後記		25

ワールドカップ

門脇春男

'79 ワールドカップは、国際体操連盟(F I G)が主催し、開催国が主管しているオリンピック大会や世界選手権大会に匹敵するビッグ大会である。

今回のW杯は、日本体操協会創立(昭和5年4月13日)50周年記念事業として開催されたもので、参加出場者は昨年11月にフランス、ストラスブールで行われた第19回世界選手権大会で、個人総合1~12位までと、種目別メダリスト6名の合計18名ずつの男女選手である。日本の女子参加は、開催国ということで2名(加納弥生、野沢咲子)を特別に認めてもらったものである。男子は勿論わが国のエース、笠松 茂、梶山広司、監物永三である。

このように、世界の超一流の内容をもった競技会なのである。男子は、ソビエトのデイチャチン、トカチェフの明年オリンピックを開催する国として絶対敗れることのできない立場から、若手精鋭をおくってきた。西ドイツのギンガー、アメリカのトーマなど、名前を聞いただけで胸がわくわくしてくるほどの選手達もやって来た。

女子は、「白い妖精」と騒がれているルーマニアのコマネチをはじめ、エベルレ、ソビエトからは日本で大変人気のあるキム、あるいはフィラトバ、アメリカのジョンソン、ハンガリーのオバリーといったそうそうたるメンバーの参加である。ソビエトのキムは見違えるばかりの

イメージチェンジをし、髪の色まで変わり、以前にも増して女性らしくなった。実にういういしい若妻姿である。女のお美しさという点では今大会随一であろう。いずれにしても、女子の試合もまたのたのしい、たのしい競技会になるものと思われる。

ところで、この大会の準備として、PRとりハーサルを兼ねて、中日カップの関連事業である東京国際競技会を国立代々木第一体育館(プール)を利用し開催してきた。12,000名の観覧席のある大きな器だけに、5~6,000名位の入場者では閉鎖としている大体育館である。ここを観客でいっぱいすることに夢をかけて、実に4年がかりの準備であった。今回の設営のため、5月28日から31日まで、4日間かかった。朝9時から夜9時までをフルに使っての作業であった。

日一日と出来あがっていく会場、ぞくぞくと来日する各国選手団、忙がし気に動きまわる役員達、私は今、この原稿を書きながら、10時間後に行なわれる華やかなオープンセレモニーを頭に描いているのである。

1979.6.1 あさ記(W杯施設部長)

注 W杯の歴史

- | | | | |
|-----|------|-------|--------|
| 第1回 | 1975 | ロンドン | (イギリス) |
| 第2回 | 1977 | オビエド | (スペイン) |
| 第3回 | 1978 | サンパウロ | (ブラジル) |
| 第4回 | 1979 | 東京 | (日本) |

昨今の世相に思う

遠藤幸雄

本年は国際児童年、それをテーマにしたゴダイゴの歌が、共産大国ソ連に輸出されるという話題もありましたが、桜樹会のメンバーの中にも子供をもつ方が年々増えていることとしますので、今回は、近年問題とされている少年少女の自殺について考え、さらにはそのこととの関連で、今後のスポーツの果す役割についてもふれてみたいと思います。

少年少女が生命を軽視する最近の風潮を、すべて現代の社会環境のせいにするのは、子を持つ親として無責任過ぎはしないかと思えます。私は家庭環境にもその一因があるように思えるのです。

戦後、日本は大家族から核家族へと推移してきました。大家族時代は、母親の目が子供たちに届く範囲は分散し限定されていました。当時は、単に家族が多いだけでなく、家庭内での労作業が沢山あって、母親自身にも時間的ゆとりがなかったし、子供たちにもそれぞれ役割があって、実にいろいろな仕事をしていました。例えば農家などでは、長男は父と一緒に田畑を耕し、長女は弟妹の子守をするなど、極くあたりまえのこととして行なわれていたのです。従って、母親が何から何まで面倒をみるようなことはなかったように思います。

しかし現代では、核家族化によって家族数は減少し、母親の目は否応なく子供達に注がれることになりました。電気製品の普及が家庭内で

の労作業を極端に減らし、母親には時間的ゆとりが生まれ、こうした傾向に増々拍車をかけたことも事実です。

このような家庭環境の変化が、子供の過保護という問題を生んだように思うのです。子供が何かやろうとすると、「危いからやめなさい」というのでは、子供の成長にとって必要と思われる諸々の体験は得られませんし、それは自立心の芽をつみとっているといっても過言ではありません。即ち、依存心の強い子供にしてしまうと思われるのです。

私は、小学三年頃まではガキ大将として過ごしました。もちろん喧嘩はつきもの、上級生相手にとっくみあいもしばしばでした。おかげで生傷がたえない有様でしたが、それは体を張っての自己主張だったと思います。こうした体験は子供にとって、とても大切だと思うのです。

だからといって子供たちに喧嘩、とくに刃物をふりまわすような危険な喧嘩を奨励するものではありませんが、今、こうして悔むことなしに当時を思い出すことができることから、あのようなことがとても貴重な体験であり、子供の時代には必要なことなのだと考えるのです。

主体性のない、依存心の強い子供が、障害にぶつかり突き離されたとき、短絡的に死を選ぶということは考えられることです。自立心に富んだ子供の育成は、家庭の責任でもあると思

ます。

さて、NHKの解説者が、「最近の子供は、仲間を遊びに誘うとき、『遊ぼう』じゃなく、『遊べる?』とたずねる」と話しているのを聞きました。

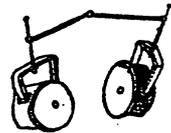
教育を否定するつもりはありませんが、学校以外の過度の学習がどれほど子供達から遊びの時間を奪っているかを物語る話だと思いました。

遊びの場にはリーダーがあり、集団の成員となる子供たちは自分の立場で何をしなければならぬかを常に考えなければなりません。そうした体験を通して社会性を身につけ成長していくのだと思います。のびのび遊べない現代の少年少女たちをとりまく環境と自殺の問題は、無関係ではなさそうです。

ところで、こうした時代にこそスポーツの果たす役割は大きいといわなければなりません。ス

ポーツへの参加によって得られる効果は今さらいうまでもありませんが、社会性を身につけたたくましい子供たちを育てるためにも、もっともっとスポーツを奨励しなければなりませんし、スポーツができるような環境づくりに努力しなければなりません。

21世紀に入りますと、余暇時間が労働時間の3倍にもなると主張している学者がいますが、これが事実とすれば余暇時間の過ごし方が今後の重要な課題となるでしょう。スポーツの実践によって健全な余暇時間を過ごそうとするには、子供のころにスポーツの楽しさや喜びを充分味わっておくことが必要です。こうした意味からも、少年少女期におけるスポーツ体験は重要であるといえますし、われわれ体育に携わる者の責任もまた重大であると考えられます。



最近強く感じることに

3回生 春山文子

4月末日、突然菊地氏より、おはがきが届いた。「今年も桜樹会々報発行の時期になり、毎回のよう原稿不足に悩んでおります。ご寄稿願えれば……」という文面であった。

例年会報を拜見し、本当に大変なことと、頭の下る思いでありました故に、そのご苦勞に対し、お断りしかね、迷ったすえペンを取る次第である。

とりたてて、これぞと思ひ内容も持ち合せないまま、卒業後18年目を迎えた近況を伝えることにした。

最近強く感じることは、学生時代を含め20才代に生命の資本を蓄積し、今では、この利子によって創造活動をしながら生きているものの生活の関心事が非常に多様になり、運動欲求も減退して来る。

しかし、筋肉が衰え、ぜい肉の着き具合が変わり、いわゆる中年のスタイルに近づき、機能変調が起って来るのを自覚しはじめたのである。この危機を運動で切り抜きたいと感じるのは、なぜか老年期を意識するからである。

昨年の夏、疲労感が続いた。食欲がなく、いらいらし、仕事は手につかなく、考えがまとまらない、おまけに微熱が続く、ついに心配のあまり病院に行ってみた。「あなたは、そろそろ更年期を迎える年令ですから……」の一言が何とショックであったこと、まだ早過ぎると打ち

消すように動いてみた。汗を流し、入浴をした後のそう快さ、身も心も晴れやかになった。心配したことがうそのようであった。さすが名医だと感謝の気持ちに変わったのである。

時間に追いかけるような多忙な生活の中で、本職である健康維持の運動を忘れていたことに気がついたのである。仕事が体育の教師でありながら、運動を忘れていたとは、笑われそのような話である。確かに一般の婦人より何倍か運動しているが、常に労働としてであり、自分のための運動が不足していることを強く感じた次第である。

女性の平均寿命が今や、78才に近くなったが、丁度半分の39才である。力の喪失が前より早まり、回復が前より遅くなり、一度力を使い果すと、次に力を発揮するようになるまでに一層長い休養期間を要するのである。動き方も考えなくてはならない。運動の質や量を考えて慎重に行なわなければ、やり過ぎて故障したり、不足して萎縮（不活動性萎縮）したりで、一層老化を早める結果になるのである。

また、今日のように、機械化された文明の中で生活していると、機械が人間の動きを取り上げその結果、狭い枠の中で、動きを固定し、多くの動きを忘れ、体力の退行をもたらしてしまう。例えば、前かがみ姿勢で、大きな筋力を使うことのない動き、当然のごとく、呼吸をはあ

はあ、はずますこともなく、また、汗ばむこともなく過すことなどが思い浮ぶ。

人間のみならず、ペットの運動不足解消のための健康器具として、トレッドミルが人気を集めているとのこと、全く恐ろしいと感じる。動物の本質は動くことではないだろうか。そして高等動物である人間は、動物の中でも、最も多くの動きを持っているはずである。

近代文明は、人間を幸福にすることが、本来のねらいであったと思う。運動不足病なる罪を受けてはならないと強く感じている。

運動不足病の増大が気になる今日、そのためか婦人体操教室も人気を呼ぶようになり、私もいくつか講師を引き受けているが、健康のために動きたいと願って訪れる人が非常に多くなったと実感している。

簡単な日常必要と思われる動きでさえも、無器用で、ぎくしゃくと、力がぬけなくて、エネルギーをいっぱい使って、すぐ疲れている。そ

んな動きも多く見受けられるけれども、健康のためにとねらいを持って、真剣に取り組む姿には、美しささえも感じている。

「昔は動けたのに」、「やっぱり動かないとだめネ」、「恰好はどうでもいいの、汗を流すとさっぱりするから」そんな会話の中に楽しさが感じ取れる。「また来週ネ」と約束して帰って行く。ここでも、動くことの大切さを痛感させられるのである。

身体と精神のバランスを失っている時、多くは、運動不足の時である。このような時、最近では、手軽に動くことにしている。

ラジオ、テレビから多く聞くことが出来るディスコティックな軽快な音楽は、動きを楽しくさせてくれる。はずんだり、手足を振ったり、ころがったりして、汗を流すと壮快になり仕事も能率が上がる。

健康で積極的な生活を得るために、動き続けたいと感じている昨今である。



男子ヨーロッパ選手権をみて

(第9回卒 西独在住) 今 村 悟

第13回ヨーロッパ選手権は、5月17日から19日まで、西ドイツのエッセン(Essen)市で開催された。私の住んでいる町から約100 kmほど離れているこのルール工業地帯の大都市は、人口60万人で西ドイツ工業の中心であり、今やヨーロッパ産業の中心地といっても過言ではない。

さて本題に入ろう。日程は、5月18日個人選手権、19日に種目別が行われた。出場選手の顔ぶれをみると、各国とも新人を多く出場させていたようである。

地元で優勝候補の筆頭に挙げられていた西ドイツのギンガーは、チーム最年長の28才であり、他は20才前後の若手で占められていた。鞍馬の名手マギャーはけがで出場できなかった。

ソ連からは、昨年の世界チャンピオン、ベテランのアンドレアノフは来なかったが、世界選手権3位の若手、ディティアティン(Ditiatin)と、鉄棒を得意とする20才のトカーチェフ(T-kachev)、それに世界選手権には出ていなかったが、これまた新人のマクーツ(Makuz)が出場した。

ブルガリアのエース、デルチェフ(Deltchev)は今年19才、昨年の世界選手権では鉄棒で大技を披露して3位になった。彼は1977年のヨーロッパ選手権でも鉄棒で優勝して最年少の記録を作っている。

主だった選手をあげてみたが、とにかく新人が多いのでどんな技をやる選手が出てくるのか見当がつかなかった。

18日の個人選手権は大混戦になった。それは、はっきり言って各選手ともあまり調子が良くなく、ミスが多かったせいといえる。優勝候補のディティアティンがあまり冴えず、ミスが多く、ギンガーも調整に失敗して最後の鞍馬で大ミスをおかしてしまった。結局、世界選手権8位の、ブルガリアの星デルチェフが優勝をさらってしまった。

デルチェフの良い点は、大技をどんどんとり入れ、それを全く恐がらずに演技している点だろう。特に鉄棒はすばらしい出来で、得点は9.80であったが実力は彼が一番のように思えた。

個人選手権は全般的には低調であり、見ごたえのある試合ではなかった。各国とも今回の試合はあくまで新人の登竜門と考えていたようで、6月の東京でのワールドカップ、12月アメリカ・ダラスでの世界選手権、そして来年のオリンピックへ向けて調整している様子が感じられた。

国別では、ブルガリアの台頭、そしてハンガリー、ルーマニアの若手がどんどん新技に挑戦していたことが印象に残った。また、DDRの3選手も、決して若いとはいえないが豊富な練

習量を思わせる力強さがあった。

今年の世界選手権は、オリンピック予選を兼ねており、中国も出場するとすると、アメリカ、DDR、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、それに中国が加わって激しい3位争いが繰り広げられそうである。

さて、種目別ではソ連の新人マクーツの活躍が目立った。彼はまだ19才で、世界選手権には出場しておらず、このことはソ連には20才前後のすばらしい若手選手が数多くいることを証明している。彼は特に平行棒の切れ味が鋭く、跳馬とともに優勝をさらった。個人戦でも2位に入っており、彼の活躍はデルチェフの成長ぶりとともに今回最も注目された選手である。

ディティアティンは、前日の個人選手権のミスを取り戻す活躍で鞍馬とつり輪に優勝した。トカーチェフは鉄棒で金メダルをとった。前日すばらしい演技を披露したデルチェフは失敗してしまい2位に甘んじた。しかし彼は床でみごとな技を見せ優勝した。

とにかく、共産圏はどんどん新しい選手が出てきている。西側では西ドイツの不振といれかわりにフランスが大いに活躍した。

ところで、今回の大会で特筆すべきことは、わが桜樹会の人見君がスペインのチームリーダーとして参加したことである。彼が10年間スペインのコーチとして、レベルの低かったスペインチームを、ヨーロッパの中堅チームにまでレベルアップさせた業績は高く評価される。外国でコーチをすることがどんなに根気のいる仕事であるか、特にスペインのようにちょっとのんびりしている国であることを考えると、その

苦勞がことさらしのばれるのである。

彼の率いる選手達が、跳馬では見事な技を披露したが、惜しくも種目別決勝には残れなかった。不運にも第一器具にあたってしまい、得点が少なくても0.2位は押えられたようである。人見君のくやしがりよりは傍目にも気の毒であった。主審はシャハリンで、彼の不人気は有名であり、観衆はいっせいに口笛を吹き抗議するシーンがしばしばあった。人見君の必死の抗議も受け入れてはもらえなかった。

体操では、後進国が一線級に仲間入りすることがいかに困難であり、並の努力ではかなわぬことは事実である。特に審判団に対する印象づけは絶対に必要である。人見君には、今年のアメリカでの世界選手権まで相当な苦勞がつきまとうであろう。

とにかく彼はいま、ヨーロッパ中をかけ廻っている。つまりオリンピックの出場権を獲得できるか否かによって今後の彼の地位も決ってくる。人見君の活躍を祈りたい。

余談になるが、先日、ブラジルの大原君がナショナルチームを引き連れて西ドイツを訪問した。残念ながら連絡を受けたのが遅く、2日間しか付き合えなかったが、彼もまた人見君に劣らず、立派なコーチに成長し、大いに活躍している。彼は西ドイツからノルウェーに遠征していたが、ここにもまた桜樹会のメンバーが国際的に活躍していることを報告しておきたい。

話は前後するが、男子のヨーロッパ選手権の一週間前には、女子のヨーロッパ選手権がデンマークのコペンハーゲンで行われた。ここではコマネチの見事なカムバックが印象深い。ご承

知のように、昨年の世界選手権ではものすごく
太り、もうコマネチの時代は終りかと言われ
たのに、それがうそであったようにすばらし
い演技をみせてくれた。現在のコマネチには、
さすがのソ連選手も歯が立たないといった感じ
であった。彼女は今の女子（少女？）選手には
ない女性らしさを身につけての演技なので、ま

さに鬼に金棒である。モスクワオリンピックが
一段と楽しみになってきた。

この原稿が日本に届く頃、東京ではワールド
カップが行われているだろう。日本選手の活躍
はどうだろう。すばらしい新人が出現してい
るだろうか。日本の試合に思いをはせてペンを置
くことにする。 1979. 6. 4

訂正とお詫び

昨年発行の会報第15号に、とびら絵として浜田先生の作品を掲載
させていただきましたが、その絵に添えられていた三島由起夫の文章
の一部に、重大な校正ミスがありましたので、ここに訂正文を掲載し、
浜田先生には慎んでお詫び申し上げる次第です。

人体が白い鉄のように大きくひらき
空中から飛んで来て
白い蝶みたいに羽根を立てて休み……

三島由起夫「美と力の接点、体操」より



競 技 会 成 績

東 日 本 学 生 選 手 権

53. 6. 4 大 田 区 立 体 育 館

(男子)

団体総合	2位		26825
個人総合	3位	山脇 恭二	54.70
種目別			
あん馬	3位	山脇 恭二	9.10
つり輪	1位	山脇 恭二	9.40
跳馬	1位	山脇 恭二	9.55
平行棒	2位	慶田盛 定	9.10
	3位	山脇 恭二	9.00
	3位	平田 倫敏	9.00
鉄棒	3位	慶田盛 定	9.55
	5位	平田 倫敏	9.35

(女子)

団体総合	4位		176.70
個人総合	4位	坪田真由美	35.70
種目別			
平行棒	4位	坪田真由美	9.10

全 日 本 学 生 選 手 権

53. 7. 27~31 京 都 府 立 体 育 館

(男子)

団体総合	2位		532.65
個人総合	2位	山脇 恭二	109.95
種目別			
あん馬	3位	山脇 恭二	18.275
つり輪	5位	平田 倫敏	18.425
跳馬	1位	山脇 恭二	18.650
	6位	平田 倫敏	18.425
平行棒	6位	山脇 恭二	17.825
鉄棒	6位	平田 倫敏	18.000

(女子)

団体総合	4位		
個人総合			
種目別			
跳馬	4位	片山みちる	9.025
ゆか	3位	内田 俊子	9.125

関 東 学 生 新 人 戦

53. 10. 27~28 駒沢体育館

(男子)

団体総合	2位		260.15
個人総合	2位	早瀬 幸博	54.20
	5位	吉田 靖一	53.20
種目別			
ゆか	2位	早瀬 幸博	9.40
あん馬	3位	早瀬 幸博	8.95
跳馬	4位	早瀬 幸博	9.20
平行棒	2位	早瀬 幸博	8.90
	4位	吉田 靖一	8.85
	6位	峯田 孝幸	8.70
鉄棒	5位	早瀬 幸博	9.10

(女子)

団体総合	5位		166.05
個人総合	1位	片山みちる	36.80
種目別			
跳馬	1位	片山みちる	9.30
平均台	1位	片山みちる	9.25
ゆか	1位	片山みちる	9.30

全 日 本 選 手 権

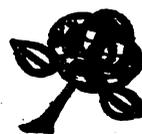
53. 11. 17~19 北九州市立総合体育館

(男子)

団体総合	5位		530.75
個人総合	11位	山脇 恭二	
	15位	平田 倫敏	
種目別			
跳馬	3位	平田 倫敏	
	6位	中村 秀也	

(女子)

団体総合	6位		350.90
個人総合	24位	片山みちる	



昭和53年度 事業及び行事報告

1. 会報の発行

第15号 53. 5

2. 競技会出場(桜樹クラブ)

第11回社会人大会(倉敷)

第32回全日本選手権大会(北九州)

3. 親睦会等の開催

(1) 五十嵐久米留学壮行会

53. 7. 2 代々木・50名

(2) ゴルフコンペ

第19回 53. 6. 22

千葉アサヒC・C 11名

(3) 忘年会

第15回 53. 12. 2~3

箱根・強羅 22名

(4) 幹事会

53. 4. 6 53. 6. 8

(5) その他各大会地における懇親会



昭和53年度 決算報告

総務 菊地 君 男

鶴見 興 人

収入の部

項目	予 算	決 算	備 考
繰越金	138,817	138,817	
会 費	500,000	572,000	過年度分32,000 本年度分498,000 次年度分42,000
寄付金	50,000	10,000	
雑収入	0	76,462	広告代収入, Tシャツ販売差益, 懇親会余剰金等
合 計	688,817	797,279	

支出の部

項目	予 算	決 算	備 考
事業費	300,000	280,500	会報15号印刷代100,500 選手派遣費(社会人大会150,000 全日本30,000)
補助費	60,000	30,000	世界選手権出場選手・役員
会議費	20,000	9,814	体協室代等
通信・印刷費	100,000	74,910	会報送料47,180 その他はがき, 切手, 諸通知等
事務費	10,000	6,680	封筒代, 原稿用紙等
雑 費	10,000	5,290	口座手数料
予備費	188,817	40,000	日体スワロー発行 体操競技写真大鑑等
繰越金	0	350,085	
合 計	688,817	797,279	

昭和54年6月14日 幹事会の責任において監査の結果, 以上の通り相違ないことを確認いたしました。

代表 石 井 征 也

昭和53年度 会費納入者一覽

総額 572,000円(決算報告参照)

領収証

№	月	日	氏名	金額	№	月	日	氏名	金額
1	53.	4. 1	高橋和秀	2,000	28	53.	4. 6	石井征也	5,000
2	"	"	朝倉和幸	2,000	29	"	5.13	池田智美	2,000
3	"	"	小林敏彦	2,000	30	"	6. 8	早田卓次	5,000
4	"	"	藪野睦明	2,000	31	"	"	原弘吉	3,000
5	"	"	板谷盛靖	2,000	32	"	"	鶴見興人	4,000
6	"	"	水田靖夫	2,000	33	"	"	杉村久子	2,000
7	"	"	松本俊一	2,000	34	"	"	稲橋恒行	5,000
8	"	"	中村秀二	2,000	35	"	"	佐藤之俊	2,000
9	"	"	境保則	2,000	36	"	6.22	春山文子	5,000
10	"	"	金居俊郎	2,000	37	"	"	近藤明	3,000
11	"	"	畠山繁博	2,000	38	"	6.26	栗原良孝	2,000
12	"	"	宮越達也	2,000	39	"	"	山本厚子	2,000
13	"	"	西谷雅世	2,000	40	"	6.27	平川文雄	5,000
14	"	"	佐藤悦子	2,000	41	"	6.28	松山禎一	2,000
15	"	"	斉藤藤太	2,000	42	"	"	櫛谷宗敬	3,000
16	"	"	巻島久	2,000	43	"	"	二岡真美子	10,000
17	"	"	今井久美子	2,000	44	"	"	斉藤敬一	3,000
18	"	"	長野郁代	2,000	45	"	"	渡辺和子	2,000
19	"	"	伊藤三千子	2,000	46	"	"	石井悦子	3,000
20	"	"	萩原美和子	2,000	47	"	"	浅田泰男	4,000
21	"	"	大木真利子	2,000	48	"	"	伊東恭一	6,000
22	"	"	西村久美子	2,000	49	"	6.29	島崎康行	3,000
23	"	"	佐藤啓	2,000	50	"	6.30	前山真一郎	2,000
24	"	"	藤井昭生	2,000	51	"	"	萩原美和子	2,000
25	"	"	木村多喜	4,000	52	"	7. 1	林富久寿	3,000
26	"	"	白土弘士	2,000	53	"	"	中島節子	2,000
27	4.	6	木村多喜	1,000	54	"	"	金子正史	5,000

№	月	日	氏名	金額	№	月	日	氏名	金額
55	53.	7. 1	今井久美子	2,000	86	53.	7.10	保坂弘一	5,000
56	"		工藤昌二	3,000	87	"	7.11	錦井利房	4,000
57	"		松本恭子	3,000	88	"	7.13	寛山秀成	2,000
58	"		武田昇	10,000	89	"		椎名厚	2,000
59	"		鈴木智加子	2,000	90	"		鴨下哲夫	10,000
60	"		小貫孝春 恵津子	4,000	91	"		菅野秀俊	3,000
61	7.	3	伊藤三千子	2,000	92	7.	15	田野哲	5,000
62	"		伊藤勇	4,000	93	"		稗田房子	5,000
63	"		千葉勉	2,000	94	"		福田竹子	5,000
64	7.	5	佐藤勲	4,000	95	"		八戸昭	5,000
65	"		平野文世	3,000	96	"		中島清	2,000
66	"		山田隆士	3,000	97	"		岡田洋二	2,000
67	"		武田和子	4,000	98	7.	17	松田明	3,000
68	"		森山理	3,000	99	7.	18	岡本公子	4,000
69	"		船木政明	4,000	100	7.	19	赤上もと子	3,000
70	"		近藤盛一	4,000	101	7.	26	山本好隆	3,000
71	"		荒井千文	3,000	102	7.	28	林昌幸	4,000
72	"		梶山広司	2,000	103	"		村上吉正	3,000
73	"		里中昌子	3,000	104	7.	30	山崎忠男	3,000
74	"		綱島路正	3,000	105	8.	9	千野良一	6,000
75	7.	6	中谷秀明	3,000	106	8.	10	芳尾明	5,000
76	"		久保田一行	2,000	107	8.	11	岡本みどり	3,000
77	"		宇野正信	3,000	108	8.	15	過足重六	3,000
78	7.	7	今村悟	10,000	109	8.	16	伊谷正一	5,000
79	7.	8	三原加津子	2,000	110	"		安藤泰行	3,000
80	"		桃井明男	3,000	111	8.	18	柳富雄	2,000
81	7.	10	川口亨	2,000	112	"		宇佐美典久	3,000
82	"		川口亨	4,000	113	8.	19	平田芳和	2,000
83	"		石塚弘子	2,000	114	"		藤田幸男	5,000
84	"		八木久美子	3,000	115	8.	21	宇津豊	3,000
85	"		加藤英夫	2,000	116	"		森重樹	4,000

№	月	日	氏名	金額	№	月	日	氏名	金額
117	53.	8.21	河原正昭	4,000	146	53.	9.2	白土弘士	2,000
118		8.22	鈴木聖子	3,000	147		9.5	酒井博行	3,000
119		"	阿部稔	3,000	148		"	三田久	5,000
120		"	高波司雄	3,000	149		"	海谷美代子	4,000
121		"	大津卓也	2,000	150		"	高橋房雄	5,000
122		8.24	田島清貴	2,000	151		9.6	山村英子	3,000
123		"	青木久美	2,000	152		"	山崎雅昭	3,000
124		"	大塚文雄	3,000	153		"	安田和明	4,000
125		8.25	平山隆	3,000	154		9.7	西原由美子	3,000
126		"	門脇文	2,000	155		9.8	山宮登美枝	2,000
127		"	奥田早苗	3,000	156		9.9	山本光子	4,000
128		"	米田賢一	5,000	157		9.14	外山宜男	3,000
129		"	井上靖	4,000	158		"	相原和明	3,000
130		8.26	金子洋平	4,000	159		"	酒井清	2,000
131		8.28	葛井克政	3,000	160		9.15	上野剛	5,000
132		"	堀田敏明	3,000	161		9.28	飯島好美	3,000
133		"	砂野泰男	4,000	162		9.29	椎名昇	3,000
134		"	榎山芳雄	4,000	163		10.5	久保英雄	3,000
135		8.30	大野登利光	6,000	164		10.6	小田武子	2,000
136		"	真島孝礼	4,000	165		10.25	小川美弥子	2,000
137		"	吉田義則	4,000	166		12.3	堀田淳二	5,000
138		"	官本敏子	2,000	167		12.13	池田智美	5,000
139		"	山内悟	4,000	168		12.20	高橋正典	3,000
140		"	朝倉徳雄	4,000	169		12.26	岩沢稔	6,000
141		8.31	伊藤寛美	4,000	170		12.30	舟山忠広	5,000
142		"	山田晴一	2,000	171	54.	1.10	大木真利子	4,000
143		"	今西悦子	3,000	172		1.23	小柴守夫	8,000
144		9.1	増子良行	2,000	173		3.23	菊地君男	5,000
145		9.2	常木正晴	4,000					

全日本カンパ協力者追加

第15号15頁に、カンパ収支報告を掲載いたしました。が、当方のミスから次の方々のお名前がぬけておりましたので追加報告し、慎んでお詫び申し上げます。

三原 加津子, 官本 敏子, 島崎 康行

昭和54年度桜樹会予算

収入の部		支出の部	
繰越金	350,085	事業費	350,000
会費	550,000	補助費	150,000
寄付金	50,000	会議費	50,000
雑収入	0	通信・印刷費	150,000
		事務費	10,000
		雑費	10,000
		予備費	230,085
合計	950,085	合計	950,085

お知らせ

昭和54年度会費について

本年度の会費額は次の通りです。

納入期限は会報発行が遅れましたので、1ヶ月延期し、昭和54年7月31日といたします。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第1回卒～第5回卒	5,000円
第6回卒～第10回卒	4,000円
第11回卒～第15回卒	3,000円
第16回卒～第20回卒	2,000円

※ 納入に際しては同封の振替用紙をご利用下さい。

懇親会報告

五十嵐久人君壮行会

アメリカへ留学する五十嵐君の壮途を祝って、53年7月2日、国立競技場東宝パーラーにて盛大な壮行会が催された。当日は、NHK杯で梶山君が初優勝し、大優勝杯を試合会場からそのままパーティー会場へ持ち込んだため、一層豪華な雰囲気となり、参加者も50名を数え、五十嵐君の壮途にふさわしい集いとなった。

〔出席者〕

門脇 春男、遠藤 幸雄、稲橋 恒行、石井 征也、堀田 淳二、芳尾 明
平川 文雄、早田 卓次、菊地 君男、上野 剛、木村 多喜、小栗 郁郎
志賀 正昌、鶴見 興人、岩沢 稔、海谷美代子、岩田 惇、朝倉 徳雄
渡部 宣裕、原 弘吉、山本 好隆、高橋 正典、外山 宜男、中島 孝
中島 松子、山崎 雅昭、山崎 信恵、椎原 英世、谷田部光則、寺元 良人
錦井 利臣、林田 房美、杉村 久子、西野 晴久、西野 良子、梶山 広司
前山真一郎、中島 節子、佐藤 之俊、橋口 幸弘、千田 修平、内田 民雄
朝倉 和幸、大木真利子、金居 俊郎、高橋 和秀、萩原美和子、松本 俊一
藪野 睦明

53年インカレ(京都)

7月29日、恒例のインカレ懇親会が、京都在住の山崎忠男君(第12回卒)の幹事でなごやかに行なわれた。

〔出席者〕

遠藤 幸雄、稲橋 恒行、早田 卓次、菊地 君男、木村 多喜、鶴見 興人
大坪 哲夫、小柴 守夫、渡部 宣裕、山田 隆士、山崎 忠男、西原由美子
五十嵐久人、梶山 広司、中島 節子

昭和53年 忘年会

15回目の記念すべき(?)忘年会は、12月2日~3日、箱根・強羅温泉喜楽荘で盛大に行なわれた。今回は、つい先日世界選手権から帰ったばかりの、梶山・早田両君の慰労会も兼ねて行なわれた。

総勢22名、90分間飲み放題に挑戦し、その実を大いにあげたのである。

〔参加者〕

稲橋 恒行, 石井 征也, 堀田 淳二, 平川 文雄, 早田 卓次, 菊地 君男
 小栗 郁郎, 鶴見 興人, 岩沢 稔, 岩田 惇, 朝倉 徳雄, 渡部 宣裕
 原 弘吉, 山本 好隆, 塚田 和茂, 石井 悦夫, 外山 宜男, 中島 孝
 梶山 広司, 佐藤 之俊, 金居 俊郎, 松本 俊一

54年度東日本インカレ 第16回卒 椎名 厚

去る5月24日～27日まで、秋田市において東日本インカレが行なわれましたのを機会に、5月26日(土)、桜樹会懇親会を開催いたしました。大会関係者の方はもちろんのこと、稲橋会長はじめ多くの方々の出席を得て、現役の優勝を祈るとともに、大いに楽しいひとときを過ごしましたことをご報告申し上げます。

(出席者) 22名

顧問 遠藤 幸雄, 小田原行雄
 第1回 稲橋 恒行
 3 米田 賢一, 三田 久
 4 佐藤 誠, 建部 盛蔵, 早田 卓次, 木村 多喜
 9 梶山 芳雄
 12 伊東 恭一
 13 辻 誌朗, 戸沢 勉, 中村 栄喜
 16 椎名 厚, 藤沢 秀男, 杉村 久子
 19 島山 繁博
 20 杉沼 誠, 高橋 博美, 鬼沢無二夫, 吉野こずえ

ゴルフコンペ成績

第19回 千葉アサヒC・C 53. 6. 22

	東	南	西	Gross	Hdcp	Net	Rank
山中 勝男	50	48	47	145	0	145	9
高橋 謙二※	61	47	48	156	27	129	3
小宮 隆※	70	71	66	207	45	162	11
高田 信興	52	48	56	156	9	147	10
角田 久※	43	51	45	139	6	133	5
佐々木孝平※	49	52	45	146	21	125	2
菊地 君男	50	52	47	149	9	140	7

	東	南	西	Gross	Hdcp	Net	Rank
阿部 信博※	52	49	52	153	13.5	139.5	6
上宮田 寛※	45	42	49	136	3	133	4
鶴見 興人	54	49	51	154	33	121	1
斉藤 貞明※	49	45	52	146	6	140	8

※印 会員外参加

	東	南	西
1位 鶴見	B・G (0.5Rごと1回のみ)	角田※	上宮田※
2位 佐々木※	B・B	高田	佐々木※
3位 高橋※	D・C	斉藤※	佐々木※
	N・P	角田※	角田※

昭和54年度体操部新入部員

昭和54年度体操関係年間予定

(男子)

氏名	出身県	出身高校
市原 邦彦	茨城	土浦日大高
及川 剛	東京	日大明誠高
川久保祐司	埼玉	日大豊山高
小坂井一弘	兵庫	県立芦屋高
武田 貞二	山形	日大山形高
小林 一彦	福島	日大東北高
田場 陸信	沖縄	興南高
中山 雅之	和歌山	県立和歌山北高
吉盛 武光	沖縄	興南高
久田 直也	千葉	土浦日大高
清水 克彦	群馬	県立中央高
森元 潤一	栃木	県立真岡高

(女子)

湯川 誠子	和歌山	県立和歌山北高
池崎万里子	熊本	熊本中央女子高
木島 智代	鳥取	県立米子商高
杉崎嘉津江	茨城	県立鉾田第二高

3.13~20	春季合宿	三島
3.30~4.1	モスクワ国際競技会	モスクワ
4.3~5	リガ国際競技会	リガ
4.14~15	TBS杯招待競技会	大分
4.15・22	東日本・全日本インカレ試技会	文理
5.1	新入生歓迎会	読売ランド
5.25~27	東日本インカレ	秋田
6.1~4	ワールドカップ'79東京大会	代々木第一
6.19~21	世界選手権 男子第二次予選会	東京体育館
7.4~8	全日本インカレ	駒沢
7.20~28	プレオリンピック	モスクワ
8.22~23	世界選手権 女子第二次予選会	代々木第二
9.3~6	ユニバーシアード	メキシコ
9.8~9	全日本社会人選手権	神奈川
9.29~30	NHK杯・ 世界選手権最終予選会	
10.14~20	第34回国体	宮崎
10.26~28	全日本選手権・ モスクワ第一次予選会	
11.	関東学生新入戦	
12.3~8	第20回世界選手権大会	テキサス ポートワース
12.15~16	'79中日カップ	名古屋

体操部納会

会 員 名 簿 訂 正 ・ 追 加

同封の1979年版会員名簿を次の通り訂正または追加してご利用下さい。

勤務先・現住所等に変更が生じた場合には、直ちに総務(菊地・鶴見)宛ご連絡下さい。

また、友人の消息をご存知の方もお知らせ願えれば幸いです。皆様のご協力によって、より完全な名簿にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

- | | |
|--|--|
| <p>第 5 回 波多野 伸
(自宅・電)0493-34-4871</p> | <p>第 17 回 寛山 秀成
(住) 削 除</p> |
| <p>第 9 回 森 重樹
(住)806 北九州市八幡西区田町
2-7-22</p> | <p>〃 山宮登美枝
(姓) 松 井
(住)174 東京都板橋区常盤台2-
17-11 アパートメントホリエ7号室
(電)03-974-6080</p> |
| <p>第 10 回 堀田 敏明
(住)855 島原市城見町 3920
島原工高職員住宅7号
(電)09576-3-5680</p> | <p>〃 山本 恭子
(勤) 削 除</p> |
| <p>第 11 回 有元 脩
〒359</p> | <p>第 18 回 内田 民雄
(自宅・電)0487-74-1500</p> |
| <p>第 12 回 朝倉 康雄
(住)362 上尾市緑ヶ丘3-2-26
上尾グリーンハイツB-405
(電)0487-73-6494</p> | <p>〃 佐藤 之俊
(勤)(住) 削 除</p> |
| <p>第 13 回 辻 誌朗
(勤) 削 除</p> | <p>第 19 回 中村 秀二
(住) 削 除</p> |
| <p>第 16 回 西野 晴久
(勤) 削 除
(住)363 桶川市上日出谷42-7
桶川教職員住宅302号
(電)0487-86-5660</p> | <p>第 20 回 杉沼 誠
(勤)秋田アスレティッククラブ
(電)0188-64-0381
(住)011 秋田市土崎港北4-5-
34
(電)0188-45-5001</p> |
| <p>第 17 回 下田 良子
(姓) 西 野
(勤) 削 除
(住)(電) 上記西野晴久に同じ</p> | <p>〃 高橋 博美
(勤)秋田アスレティッククラブ
(電)0188-64-0381
(住)010-40 秋田市大住2-3-3
(電)0188-35-0536</p> |
| <p>〃 丹野 優子
(住) 削 除
○コストリカ在住</p> | <p>〃 朝比奈昭夫
(住)683 米子市勝田町297
(電)0859-33-4848</p> |
| <p>第 9 回 井上 靖 〒670 姫路市土山薬王寺前438-1 ビラ土山503号</p> | |

出身高校にみる桜樹会員のふるさと

菊 地 君 男

新名簿を発刊するにあたって、ふと思いついて会員の出身高校について調べてみた。高校ごとに人数を集計して、いくつかの項目に分類整理してみたところ、案外おもしろい結果を得たので報告することにした。

出身高校の所在地が必ずしもその人の“ふるさと”とは限らないが、一般的にはそう考えてよいだろう。だとすると、同郷の、しかも同窓の者が果して何人自分と同じ道を歩んだのだろうかというのは興味あることと思われる。標題はそうした興味に応える意味もこめた苦しまぎれの表現である。的はずれの内容かもしれないがお許し願いたい。

集計の対象は、会員440名(内74名住所不明)のうち出身高校の判明している者386名である。高校総数は176校あった。高校所在地については昭和54年度版学校総覧によって確認した。

人数校数

北海道 13 10 札幌東(2) 八雲(2) 函館大谷(2)
札幌静修(1) 北海道日大(1)
函館中部(1) 札幌旭ヶ丘(1)
札幌光星(1) 江別(1)
北見柏陽(1)
青 森 9 5 弘前実(5) 青森中央(1)
大湊(1) 田名部(1) 三沢(1)
岩 手 4 4 水沢第一(1) 岩手(1)

盛岡第一(1) 紫波(1)
宮 城 9 4 仙台育英(5) 常盤木学園(2)
古川女子(1) 白石女子(1)
秋 田 39 6 秋田工(17) 能代(13)
大館桂(3) 由利(3)
秋田経大付(2) 秋田南(1)
山 形 17 5 日大山形(7) 酒田中央(6)
米沢商(2) 山形北(1) 山形商(1)
福 島 4 3 保原(2) 日大東北(1) 会津工(1)
茨 城 17 7 土浦日大(9) 境(2) 水戸農(2)
鉾田第二(1) 磯原(1)
取手二(1) 石岡第二(1)
栃 木 12 5 作新学園(6) 真岡(3) 栃木(1)
足利女子(1) 足利工(1)
群 馬 7 3 高崎工(4) 太田(2)
伊勢崎女子(1)
埼 玉 8 6 蕨(3) 草加(1) 熊谷商(1)
大宮工(1) 春日部(1) 本庄(1)
千 葉 13 5 市立習志野(8) 佐原(2)
安房南(1) 千葉商(1) 銚子(1)
東 京 71 29 国学院(10) 日大豊山(7) 本郷(6)
大成(5) 藤村女子(5) 二階堂(4)
日大二(3) 京橋(2) 日大鶴ヶ丘(2)
日大桜ヶ丘(2) 都立駒場(2)
豊南(2) 久我山(2) 保善(2)
国士館(2) 京北(2) 日大三(1)
日大一(1) 聖学院(1) 麻布(1)

			世田谷(1) 早実(1) 安田学園(1)	山 口	2	2	桜ヶ丘(1) 山口中央(1)
			駒場学園(1) 大泉(1) 高輪(1)	香 川	7	4	丸亀(3) 高松市立第一(2)
			開成(1) 実践女子(1) 桜華(1)				観音寺第一(1) 土庄(1)
神奈川	17	11	相工大付(4) 横浜第一商(3)	徳 島	2	1	徳島商(2)
			日大藤沢(2) 富士見ヶ丘(1)	愛 媛	1	1	川之江(1)
			湘南学園(1) 神奈川商工(1)	高 知	5	4	追手前(2) 高知(1) 高知工(1)
			川和(1) 法政二(1) 横須賀第一(1)				中村(1)
			小田原(1) 西湘(1)	福 岡	19	7	戸畑(8) 九州女子(3) 常盤(3)
山 梨	2	2	甲府工(1) 日大明誠(1)				門司北(2) 福岡大付大濠(1)
新 潟	3	3	村松(1) 高田商(1) 新潟南(1)				泰星(1) 東築(1)
長 野	4	3	長野中央(2) 諏訪二葉(1)	佐 賀	2	2	鳥栖(1) 唐津(1)
			飯山北(1)	長 崎	2	2	天草(1) 佐世保北(1)
富 山	1	1	富山商(1)	熊 本	11	4	鎮西(6) 熊本中央女子(3)
石 川	0	0					八代(1) 熊本工(1)
福 井	4	2	武生(3) 鯖江(1)	大 分	4	2	佐伯鶴城(3) 大分鶴崎(1)
静 岡	6	3	日大三島(4) 浜松市立(1) 誠心(1)	宮 崎	2	1	宮崎日大(2)
愛 知	0	0		鹿 児 島	1	1	鹿児島実(1)
三 重	2	2	桑名(1) 暁(1)	沖 繩	6	2	興南(5) 首里(1)
岐 阜	0	0					
滋 賀	0	0					
京 都	3	1	東山(3)				
大 阪	16	3	清風(8) 四天王寺(7) 浪商(1)				
兵 庫	12	5	葺合(8) 武庫川(1) 山崎(1)				
			神港(1) 芦屋(1)				
奈 良	0	0					
和歌山	2	1	田辺(2)				
鳥 取	10	5	米子商(3) 米子西(3) 米子北(2)				
			米子工(1) 鳥取西(1)				
島 根	2	2	大社(1) 浜田(1)				
岡 山	10	4	関西(4) 岡山日大(3)				
			山陽女子(2) 倉敷工(1)				
広 島	5	2	盈進(4) 三原東(1)				
				計	386人	175校	

高校別ランキング(5人以上)

順位	高校名	人数
1	県立秋田工高	17
2	県立能代高	13
3	国 学 院	10
4	土 浦 日 大 高	9
5	市立習志野高	8
"	清 風 高	8
"	市立葺合高	8
"	県立戸畑高	8
9	日大山形高	7
"	日大豊山高	7

順位	高校名	人数
9	四天王寺高	7
12	市立酒田中央高	6
"	作新学院	6
"	本郷高	6
"	鎮西高	6
16	県立弘前実高	5
"	仙台育英高	5
"	藤村女子高	5
"	大成高	5
"	興南高	5

都道府県別人数ランキング(10位まで)

順位	都道府県名	人数
1	東京	71
2	秋田	39
3	福岡	19
4	山形	17
"	茨城	17
"	神奈川	17
7	大阪	16
8	北海道	13
"	千葉	13
10	栃木	12
"	兵庫	12

都道府県別校数ランキング(5校以上)

順位	都道府県名	校数
1	東京	29
2	北海道	11
"	神奈川	11
4	茨城	7
"	福岡	7
6	秋田	6
"	埼玉	6
8	青森	5
"	山形	5
"	栃木	5
"	千葉	5
"	兵庫	5
"	鳥取	5

ブロック別人数

北海道	13
東北	82
関東	147
北陸	12
東海	8
近畿	33
中国	29
四国	15
九州	47



編 集 後 記

梅雨^{つゆ}のあい間とはいふものの、ここ2・3日真夏のような太陽が照りつけている関東地方である。

名簿ができ上ってから約1ヶ月、いまやっと会報の整理が終ったところである。1年に1回の仕事なのだから、もっと余裕をもって、早目に用意万端整えて、といつも思うのだが、このことにかかり切りになるわけにもいかず、毎年同じようなことのくり返しである。

そんなわけで名簿の発送が遅れている間に続々移動が生じた。今春卒業の新入会員からの連絡もポツリ、ポツリ入ってくる。せっかく新調した名簿に赤ペンで書き込まなければならないのは実に残念である。しかし、こうして連絡があったお蔭で今回の会報で訂正できたのだし、

会報や名簿を送ることができるのである。

今回は約370名に送付することになるが、おそらく10通以上、転居不明などのペラをつけて戻ってくることになるだろう。

本文中でもお願いしたことではあるが、変更があった場合は直ちにご一報願いたい。友達の情報についても同様である。名簿をみて「アレ、奴はもうここには居ないぞ」と思ったら奴のためにぜひ連絡してほしい。より完全な住所録にするためには皆様のご協力がどうしても必要なのである。

午前8時前というのに気温はかなり上がっている。関東地方は今日もまた高気圧におおわれているのだろう、暑い一日となりそうである。

1979. 6. 18 菊地記

土木・建築・設計・施工・管理

株式会社 市 組

江戸川区葛西2-3112

TEL 680-3484

第1回卒 石井征也